第57回中日理論言語学研究会　2022年１月22日

姿勢表現再考
―中日対照を中心に―

彭　広陸（北京理工大学）
hokoriku@yahoo.co.jp
pengguanglu163@163.com

目次

１．はじめに
２．古代中国語と現代中国語に見られる「姿勢動詞」の相違
３．中国語の補語
４．姿勢動詞の位置づけ
５．姿勢動詞の中日比較
4.1　姿勢動詞の意味　4.2　姿勢動詞と存在　4.3　姿勢動詞と移動
4.4　姿勢動詞と時間　4.5　姿勢動詞と働きかけ　4.6　姿勢動詞と実現
６．姿勢表現と視点
７．姿勢表現への見直し
８．おわりに

1．はじめに（1）

≪姿勢動詞≫は、姿勢――人間の体全体の一時的な状態及びその変化を名付ける、再帰性を持つ自動詞を指すが、典型的なものとして、“站”／「立つ」と“坐”／「座る」などを挙げることができる。しかし、中国語の姿勢動詞（いわゆる“光杆動詞”（裸の動詞））だけでは、姿勢の変化を表すことができないのに対して、日本語の動詞はそれができるのである。中国語の姿勢動詞が姿勢の変化を表すのに、“站起来”“坐下”のように、いわゆる方向補語（趨向補語）を後接成分としてくっつけることが義務的である。このような文法的なふるまいの違いは、中国語の姿勢動詞の語彙的な意味に≪状態性≫という意味特徴が含まれ、日本語のそれには≪変化性≫という意味特徴が含まれているという相違に起因していると考えられる。

１．はじめに（２）

本発表は彭広陸（1998，2000、2021）を踏まえ、Talmyの移動動詞の類型論を援用して中日両語における姿勢動詞を再考しようとするものである。

参照

（１）彭广陆《日汉姿态动词对比研究》《汉日语言研究文集》第1辑、北京外国语大学国际交流学院编、北京出版社、1998年5月（pp. 176-196）

（２）彭広陸「日中両国語における姿勢動詞の比較」『日中言語対照研究論集』第2号、日中言語対照研究会編、白帝社、2000年5月（pp. 47-71）

（３）彭広陸「姿勢動詞における視点のあり方―中日対照を中心に」（東アジア国際言語学会第８回大会口頭発表、2021年2月28日、オンライン開催）

1. はじめに（3） 中国語の姿勢動詞(連語も含む)

〇起、立、起立、起来、起身、站、站起来、站起身
〇坐、坐下、坐下来、坐下去、坐起来、坐起身
〇蹲、蹲下、蹲下来、蹲下去
〇跪、下跪、跪下、跪下去、跪下来
〇俯身、弯腰、弯下腰、鞠躬
〇躺、躺下、躺下来、躺下去、趴、趴下、卧、仰卧、卧倒

姿勢動詞を判断する目安
站姿、立姿、坐姿、跪姿、蹲姿、卧姿

1．はじめに（4）　日本語の姿勢動詞(連語も含む)

〇起きる、立つ、起き上がる、起立する、立ち上げる、身を起こす、腰を上げる、半身を起こす、上体を上げる、上半身を上げる

〇座る、掛ける、腰掛ける、着席する、腰を下ろす、腰を掛ける、腰を据える、腰を落ち着ける

〇しゃがむ、かがむ、前かがみになる、腰をかがめる、跪く、土下座する

〇寝転ぶ、横たわる、横になる、身を横たえる、仰向けになる、腹ばいになる

２．古代中国語と現代中国語に見られる「姿勢動詞」の相違(1)

鸿门宴（《史记・项羽本纪》）

- 项王即日因留沛公与饮。项王、项伯东向坐；亚父南向坐，——亚父者，范增也；沛公北向坐；张良西向侍。范增数目项王，举所佩玉玦以示之者三，项王默然不应。范增起，……

  项羽当天就留刘邦同他饮酒。项羽、项伯面向东坐；亚你面向南坐——亚父这个人，就是范增；刘邦面向北坐；张良面向西陪坐。范增多次使眼色给项羽，举起（他）所佩带的玉玦向项羽示意多次，项羽默默地没有反应。范增站起来，

- 哙遂入，披帷西向立，瞋目视项王，头发上指，目眦尽裂。

  樊哙就进去了，揭开帷幕面向西站立，瞪眼看着项羽，头发直坚起来，眼眶都要裂开了。

- 哙拜谢，起，立而饮之。

  樊哙拜谢，立起，站着（一口气）把酒渴了。

- 项王未有以应，曰：“坐。”樊哙从良坐。坐须臾，沛公起如厕，因招樊哙出。

  项羽无话可答，说：“坐吧。”樊哙使挨着张良坐下。坐了一会儿，刘邦起身上厕所，顺便招呼樊哙（一道）出去。

２．古代中国語と現代中国語に見られる「姿勢動詞」の相違(2)

鴻門之会（史記）

- 項王即日因（よ）りて沛公を留（とど）めて与（とも）に飲す。項王・項伯は東嚮（とうきやう）して坐し、亜父は南嚮して坐す。亜父とは、范増（はんぞう）なり。沛公は北嚮して坐し、張良は西嚮して侍す。范増数（しばしば）項王に目し、佩（お）ぶる所の玉玦（ぎよくけつ）を挙げて、以て之に示すこと三たびす。項王黙然として応ぜず。范増起（た）ちて出で、……

項王はその日、そのまま沛公を留め、ともに宴を開いた。項王と項伯は東に向いて座り、亜父は南に向いて座った。亜父とは范増のことである。沛公は北に向いて座り、張良は西に向き（沛公のそばに）控えて座った。
范増は何度も項王に目配せし、身に付けている玉玦を持ち挙げて、（沛公を殺すよう）示すこと数回に及んだ。
しかし、項王は黙ったままで応じない。范増は座を立ち外に出て、

- 噲遂（つひ）に入り、帷（ゐ）を披（ひら）きて西嚮して立ち、目を瞋（いか）らして項王を視（み）る。頭髪上指し、目眦（もくし）尽（ことごと）く裂く。

噲はそのまま中に入った。幕を開き西向きに立ち、目を大きく開いて項王を見る。頭髪は逆立ち、まなじりは完全に裂けている。

- 噲拝謝して起ち、立ちながらにして之を飲む。

噲は慎んで礼を言うと立ち上がり、立ったまま飲んだ。

項王未だ以て応（こた）ふる有らず。曰はく、「坐せよ」と。樊噲良に従ひて坐す。坐すること須臾にして、沛公起ちて廁（かはや）に如く。

項王は返答しない。「座れよ。」と言う。樊噲は良の隣に座った。座って少しすると、沛公は立ち上がり廁へ行った。

２．古代中国語と現代中国語に見られる「姿勢動詞」の相違（３）：動補構造の成立

≪姿勢動詞≫の名付ける姿勢＝立ち振る舞いという人間の日常的な動作には、／上下に体を動かす／という意味特徴なる≪方向性≫を持っているという特徴が見られる。そういった≪方向性≫は古代中国語の姿勢動詞の語彙的な意味にも含まれていたのである。

しかし、石毓智（2003:12）によれば、12世紀ごろ≪動補構造≫という新しい単文の構造が定着したという。次のような構文的な変化である。

S ＋ V ＋ O ＋ R → S ＋ V-R+ O

唤江郎觉（世说新语）　三翁唤觉知远（刘知远诸宫调）

３．中国語の補語（１）補語の分類

刘月华等《实用现代汉语语法》（第三版）

（１）結果補語（结果补语）

卧铺全卖光了。／你看完这本杂志了？

（２）方向補語（趋向补语）

小明从图书馆借来一本书。 ／把敌人从山崖上推下去了。

（３）可能補語（可能补语）

我的话你们听得懂吗？ ／这件事我总也忘不了。

（４）様態補語（情态补语）

睡得很晚。 ／辛苦得很。／他的脸胀得通红。

（５）程度補語（程度补语）

这本书我喜欢极了。 ／外边热得要死，别出去了。

（６）数量補語（数量补语）

这本书你看过几遍了？ ／他在路上整整走了三天。

（７）介詞フレーズ補語（介词短语补语）

鲁迅生于1881年。 ／我们从胜利走向胜利。 ／这是发自内心的喜悦。

３．中国語の補語（２）方向補語

刘月华等《实用现代汉语语法》（第三版）

- 単純方向補語

来、去、上、下、进、出、回、过、起、开、到

- 複合方向補語

	上	下	进	出	回	过	起	开	到
来	上来	下来	进来	出来	回来	过来	起来	开来	到…来
去	上去	下去	进去	出去	回去	过去	――	――	到…去

３．中国語の補語（３）

方向補語による方向性の標示

動補構造の定着により姿勢動詞の用法にも影響を及すことになる。具体的に言うと、もともと姿勢動詞の語彙的な意味に方向性が含みこまれて、換言すれば、姿勢動詞だけでも表現できた姿勢の変化を動補構造によって言い表さなければならなくったのである。姿勢動詞が動作を、補語（具体的には≪方向補語≫）が方向性をそれぞれ表現するようになったとも言える。つまり姿勢動詞にとって補語という文の成分が方向性のマーカーとなったということである。もちろん、姿勢の変更を言い表すには、動補構造のみならず、動詞と名詞との組み合わせによって表現することも可能である。

古代中国語		現代中国語
起	→	站起来
		起身
坐	→	坐下

4. 姿勢動詞の位置づけ(1)中国語の場合(1)

马庆株（1981）における分類

- 动词
  - 非持续性动词——死类
  - 持续性动词
    - 强持续性动词——等类
    - 类弱持续性动词（看、挂）
      - 看类
      - 挂类

“坐”“站”“躺”などの姿勢動詞は“等”と同じように“强持续性动词”とされており、その特徴は、“了”“着”“过”などの助詞を従えることができるし、それと共起する“时量宾语”は動作の継続する時間を表すことになっているということである。

4. 姿勢動詞の位置づけ(1)中国語の場合(2)

李臨定（1990：96）は、いわゆる姿勢動詞を、静止の、継続的な状態を表す「状態動詞」と見なしていながら、それと対応する動作動詞も存在すると主張している。つまり、下の例では、Aグループにおける姿勢動詞は状態動詞であり、Bグループにおける姿勢動詞は動作動詞であるということである。

A	B
1）他在床上躺着呢	他正往下躺呢
2）他在外边站着呢	他正往上边站呢
3）他们都在雪地里趴着呢	你快趴下吧
4）大家都靠墙蹲着	我们都蹲下来
5）几个人在地上跪着	他正往下跪呢
6）一个人在沙发上坐着	他正往下坐呢

4. 姿勢動詞の位置づけ(1)中国語の場合(3)

荒川清秀（1985）は、姿勢動詞を、動作動詞の下位分類の一つである《静態動詞》と考えて、《状態動詞》から区別している。その理由は、《静態動詞》はアスペクトのマーカーである「了le」「着zhe」「过guo」の形を取ることができるし、また重ねて使うことができ、命令文にも使うことができるからであるという。更に姿勢動詞のカテゴリカルな意味を≪静態性≫としている。

4. 姿勢動詞の位置づけ(1)中国語の場合(4)

郭锐（1997）は、動作の表す内的な時間構造（过程结构）に基づいて、中国語の動詞を次のように分類している。その分類においては、姿勢動詞は、動作動詞の下位分類の一つとされている。

- 动词
  - 静态动词（stative verbs）
  - 动态动词（dynamic verbs）
    - 动作动词（action verbs）
    - 变化动词（change verbs）

4. 姿勢動詞の位置づけ(2)日本語の場合(1)

　奥田靖雄（1994）は、動詞の語彙・文法的な系列として日本語の動詞を、《動作動詞》《変化動詞》《状態動詞》という三つに分けている。動作動詞は、対象に対する人間の意図的な、物理的な働きかけをとらえているのに対して、変化動詞は、同じ一つの物のあり方の更新をとらえているという。そのため、「原則的には、動作動詞は、継続相において、客体に働きかけていく動作の継続をさしだしているし、変化動詞は変化の結果として生じてくる状態の継続をさしだしているのである」。一方、《状態動詞》は、人間の生理・心理的な現象、つまり「一時的におこってくる《ただの状態》をさしだしているにすぎない」のであって、「《動作》をも《変化》をもいいあらわしてはいない」。したがって、「状態動詞では、完成相と継続相との、アスペクト的な対立は見られないのである」という。

4. 姿勢動詞の位置づけ(2)日本語の場合(2)

奥田の分類は、日本語動詞のアスペクトと密接に関係している。奥田靖雄（1993）では、日本語動詞のテンス・アスペクトの体系が次のような形で示されている。

テンス / アスペクト	非過去	過去
完成相	する	した
継続相	している	していた

4. 姿勢動詞の位置づけ(2)日本語の場合(3)

　奥田靖雄（1997）では、ふるまい動作をとらえている動作動詞（即ちここで言う姿勢動詞）は、「動作がすなわち変化であれば、動作動詞としての、変化動詞としての、二つの形態論的な特徴をそなえていることになる。形態論的なかたちの体系のタイプとしてみれば、ふるまい動作をとらえている、これらの動作動詞は混合型である。」とされている。つまり、いわゆる姿勢動詞は、主体の意志性を表す点では動作動詞に帰属させるべきなのであるが、アスペクト的には変化動詞的な特徴をもっているため、混合型の動詞ということになるのである。

４．姿勢動詞の位置づけ(2)日本語の場合(4)

工藤真由美（1995：74）では、「かがむ・こしかける・しゃがむ・すわる・たつ・ねころぶ（おきる・ねる）」などの姿勢動詞が≪主体変化動詞≪内的限界動詞≫とされている。

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（１）

姿勢が人間の体全体の存在の仕方であると規定すれば、人間は、いつでも何らかの姿勢を取って存在しているということになる。そして、次から次へと姿勢を変えていくのが普通である。そうすると、ある姿勢から別の姿勢に変更することと、ある姿勢を継続・維持することを言語的に表現する形式が必要になってくるわけである。いわゆる姿勢動詞がこのような機能を果たしているのである。

○公演中は楽屋のソファに横たわり、「出番ですよ」の声がかかると、何も言わずに、スット身を起こした。（朝日新聞1999.6.11夕刊）

○中国对沙特之战我在前20分钟简直疯了，在床上躺下、坐起来，跪在床上又站起来。（足球1998.1.19）

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（２）

　日本語の姿勢動詞は、変化性という意味特徴を持っている。したがって、「完成相においては、姿勢に変更のあったこと、つまり、あたらしい姿勢＝状態の実現をいいあらわしている」（奥田：1994）のである。つまり、姿勢動詞そのもの（無標の語形＝完成相）が変化としての姿勢の変更をいいあらわしているため、状態としての姿勢を表現するには、継続相の形を取らなければならないということである。

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（3）

〇冬香は戸惑ったようだが、菊治が立つと、つられたように立ち上がる。
（愛の流刑地・上p. 54）
〇菊治の位置からは、斜め前の方向から近づき、やがてすぐ真横の位置まで来て座る。（愛の流刑地・下p. 249）
〇松宮は上着を脱ぎ、椅子に腰かけた。（祈りの幕が下りる時p. 263）
〇美那子も立ち上がった。小坂だけが腰を下ろしている。（氷壁p. 13）
〇「おい、もう止めえ。おい坐れえ、坐らんか」と友達甲斐のある学生が、不意に立ったかと思うと、立っている学生に抱きついて、共倒れのようにして腰をかけさせました。（駅前旅館p. 82）
〇なずなはすでに手術を終えてベッドに横たわっていた。
（ほかならぬ人へ。p. 140）
〇ハンバーガーのチェーン店の裏口の所に、一郎は立っていたのだった。
（踊る男p. 179）

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（4）

典型的な、中国語の姿勢動詞（例えば“站、坐、蹲、躺”など）は、状態性という意味特徴を持っている。そのために、姿勢動詞自体（いわゆる“光杆动词”！）が姿勢の継続を表すことができる。それに対して、姿勢の変更を表すためには、方向補語（例えば“下来”“下去”“起来”）や介詞と方位詞とのくみあわせ（例えば“往下”）との共起が必要になるのである。

次のような語句が中国語の姿勢動詞の継続性を端的に表現していると考えられる。

罰跪、罰站
坐冷板凳
蹲监狱、蹲基层
坐（大）牢
跪搓板、跪键盘
长跪不起
久坐成疾

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（５）

〇她说着站起身，轻盈地离开了卧室。（大鸟p. 128）

〇方微起身要走，卜松明挡住她，…（作家文摘1997. 10. 10）

〇她站起来，向贵宾席走去。（人到老年p. 158）

〇她咬了咬牙，跪下来匆匆磕了个头，直起腰一动不动，直勾勾的眼睛闪跳着火星子。（野婚p. 15）

〇他蹲下身，假意亲近那狗。（大鸟p. 274）

〇她站在舞厅一角，我拣另一端坐下。我戴了帽子，背朝着她坐着。（相会在最后的岛屿p. 127）

〇印家厚回头看时，雅丽仍然那么站着，……（相会在最后岛屿p. 329）

〇阿康，你怎么跪下了！（无极神医）

〇叶风云说了这一句，就躺下了。

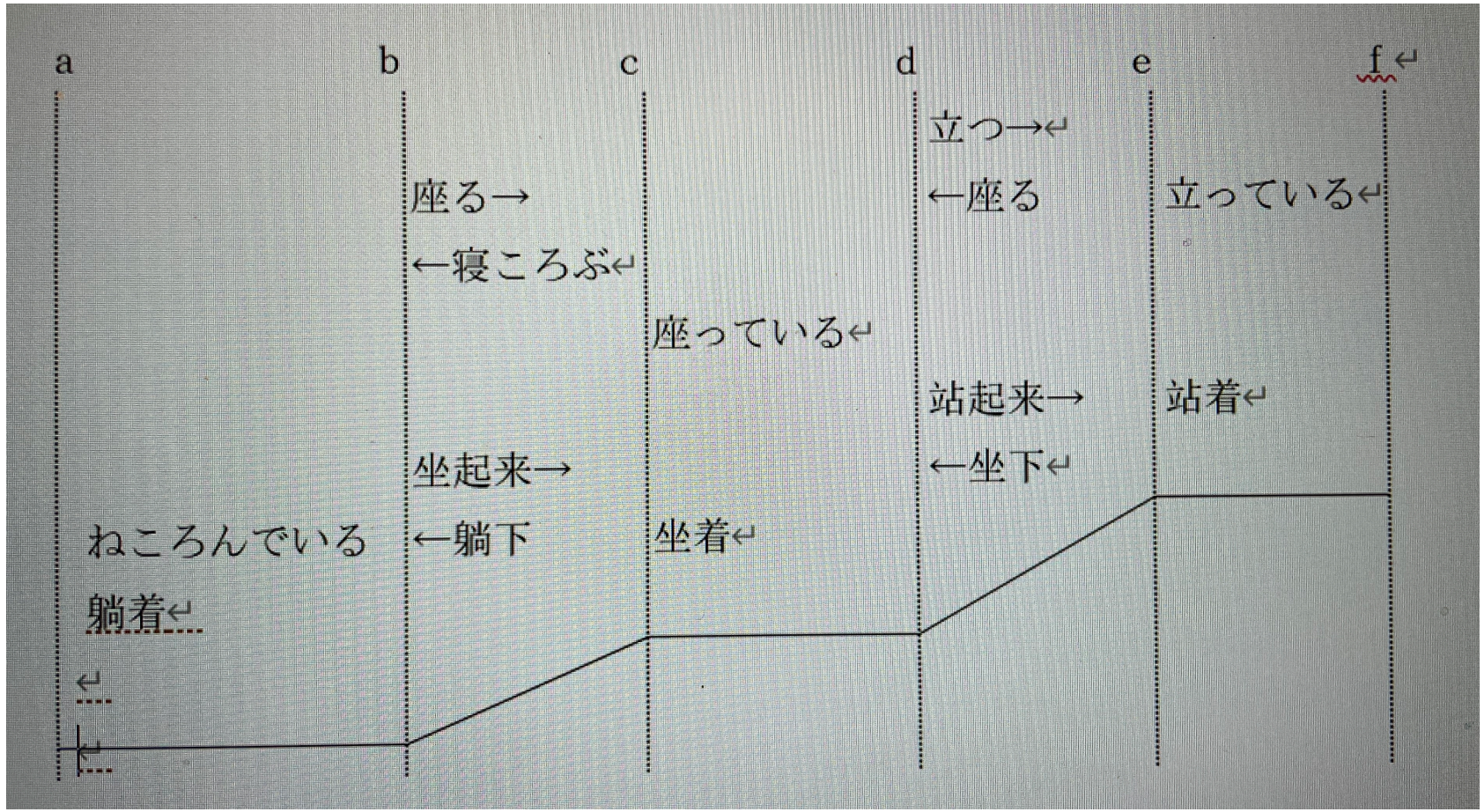
５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（6）

荒川（1985）では、中日両語における姿勢動詞の相違について次のように論じている。

日本語の立ツ、スワル…の動詞は、変化や過程に重点のある動詞であるが、中国語の“站”類は、変化や過程よりも状態（“站”なら立ッテイルという状態）を表すのがその基本的な意味である。このことはつまり、“站着”等々は、立ッテイルという意味の動詞と“着”との結合であって、立ッタ結果の状態の持続と考えなくてもよいということである。

５．姿勢動詞の中日比較（１）意味（7）

次の図では、直線が姿勢の持続、斜線が姿勢の変更を示す。矢印は姿勢変更の方向を示す（彭広陸2000参照。一部改変）



５．姿勢動詞の中日比較（２）存在：所在文（１）

姿勢動詞は、ある種の構文に使用される時、姿勢を表しているだけではなく、／存在／という意味をも同時に表現していることがある。それは、姿勢動詞が／付着性／という意味特徴を持っていて、広い意味での場所名詞と組合わさる時にはそれが顕在化するからである③。

姿勢動詞が所在文に使われる場合、特定の人間がある姿勢を取って、ある場所に存在することを表現している。

姿勢動詞が所在文に使用される時は、継続相の形を取らなければならない。主語は、取りたて助辞「は」によって指し示されることになるのだが、その主語の表す存在の主体は、既知の者、特定の者であるのが普通である。一方、存在の場所は、格助辞「に」によって表されている。

〇私は一人、敷いた寝床の上に坐っていた。（金閣寺p. 243）

〇伊吹恒夫と三瓶豊喜は京都駅の二階にある喫茶店のボックスに向きあって腰掛けていた。（女面p. 7）

〇彼はグラウンドへ下りる二三段の大谷石の石段に腰を下ろしていた。（金閣寺p. 8）

〇その連れの客は、オーバーを着て土間に立っている。（駅前旅館p. 31）

〇なずなはすでに手術を終えてベッドに横たわっていた。（ほかならぬ人へp. 140）

５．姿勢動詞の中日比較（2）存在：所在文(2)

中国語の姿勢動詞が所在文に使用されている時の特徴としては、特定の、既知の動作主体を表している主語が必ず姿勢動詞の前に位置していることと、姿勢動詞の後ろには、介詞「在」と場所名詞（あるいは場所名詞化された名詞的連語）とのくみあわせが後続していることが挙げられる。

〇一根横木，一根横木，他浑身被汗水湿透，但终于爬上去了，并高高站在了房顶上。（初渡p. 64）

〇陶兴本又和刘院长等人握手寒暄，然后坐在潘延俊旁边。（太阳雪p. 77）

〇“唉！”谷老茬子大伯一声哀叹，抱着头蹲在了炕沿下。（野婚p. 41）

〇维维安静静地躺在那儿。（你一直对温柔妥协p. 88）

５．姿勢動詞の中日比較（2）存在：存在文(1)

- 姿勢動詞が存在文に用いられる時には、ある所に、何らかの姿勢を取っている、未知の、不特定の人が存在しているということを表しているのだが、その姿勢動詞は、存在動詞の機能を果たしていると同時に、存在の主体を姿勢の観点から特徴づけていることにもなるのだろう。
- 日本語の存在文は、所在文とは対照的な「（場所名詞）ニ＋（人名詞／物名詞）ガ＋いる／ある」という構文を採用しているのが特徴的である。そして、姿勢動詞が、状態を表現するところの存在動詞の代わりに使用される場合は、継続相の形を取らなければならない。この種の文は、／発見／のニュアンスを帯びていることがあるため、主語の表す動作の主体は特定の人間であってもよいのである。そして、ニ格の名詞は、姿勢動詞の使われる所在文におけるニ格の名詞と同じ意味特徴を持っているものに限られているのだが、省略されることもある。

〇魚津は背後を振り向いた。かおるが立っていた。（氷壁p. 141）

〇釣られて、彼が振り向くと、そこに雨谷が立っていた。（夜の噂p. 263）

〇椅子の傍の床に、赤い洋服を着た女が坐っている。（夜の噂p. 168）

〇眼をさまして見ると隣の空いたベッドに飯田敏春が腰をかけて居た。
（若者たちの悲歌p. 172）

５．姿勢動詞の中日比較（2）存在：存在文(2)

中国語の場合は、存在の場所を表す場所名詞が文の初めか動詞の前に位置しなければならないのだが、姿勢動詞も必ず「着」を伴う形で使用されることになっている。そして、未知の、不特定の存在の主体を名づける名詞が例外なく動詞の後ろに現れてきている。日本語の場合と同じように、常に／発見／のニュアンスが付きまとっている。

〇大会主席台上坐着当地政府五大班子的领导成员。
（作家文摘1997. 9. 26）

〇刘果进到门里，才发现屋里坐着一个中年男人，穿着很整洁，……
（作家文摘1997. 10. 3）

〇……窗户大开着，窗口站着一位消瘦的老者。（作家文摘1997. 10. 3）

〇……一张大铁床上，赤条条地躺着一男一女，……
（相会在最后的岛屿p. 150）

５．姿勢動詞の中日比較（3）移動(1)

　姿勢動詞は、移動動詞とよく似ている。両者とも主体と空間との関係の変化を言い表していて、広い意味での移動を表している。しかし、かなりの程度において、両者の移動の方向が違っている。つまり、多くの場合は、姿勢動詞は主体の上下の移動を表しているのに対して、「飛ぶ」「上る」「浮ぶ」「沈む」などを除けば、移動動詞は主に水平の移動を表して姿勢動詞と組合わさる場所名詞は、一定の空間を有する物名詞か場所名詞化された物名詞か一部の場所名詞である。それに対して、移動動詞と組合わさるのは基本的には本来の場所名詞なのである。そして、移動動詞は、主体の空間的な位置関係の変化を表しているのに対して、姿勢動詞は、主に主体と物との関係の変化を表している。いるといってよいだろう。

５．姿勢動詞の中日比較（3）移動（2）

　姿勢動詞は、使用によっては、≪移動性≫という意味特徴を帯びてくることがある。日本語の「発つ」が「立つ」から派生して来たことからも分かるように、姿勢動詞は移動動詞と意味的に密接な関係にあるのである。姿勢動詞が≪移動性≫を表現する時には、何かの文法的な手段が取られることが多い。移動性の表現に利用される姿勢動詞は、動作主体がその場所に到達したりそこから離れたりする瞬間と同時に、姿勢の変更を完成することを表しているのである。

５．姿勢動詞の中日比較（3）移動（3）

姿勢動詞「立つ」は、「～て来る」という分析的な形で使用され、そしてニ格の場所名詞と組合わさる時には、≪移動性≫を表している。

○「あら、今晩も花千代さんのところへ、おさだまりなんでしょう」と、豆女中が、私のそばに立って来たもんで、私の馴染女郎の名前が露見してしまいました。（駅前旅館p. 44）

○お茶をついでいた女中が「どこにコジキがおりますか」と、窓際に立ってきたので、……（駅前旅館p. 19）

しかし、上に挙げたような、移動性が明示されている用例はそう多くはないようである。次の例の場合は、文全体から移動性の表現が読み取れるだろう。ニ格の場所名詞と組み合わさる「立つ」が完成相の形を取っていることは移動性を表現する保証になっていると言ってよかろう。

○月夜には裸かの母は、灯を消して姿見の前に立った！（午後の曳航p. 11）

○喪服の凛子と並んで、久木も窓際に立つ。（失楽園・上p. 180）

○「被告人は証言台の前に立ってください」（愛の流刑地・下p. 215）

５．姿勢動詞の中日比較（3）移動（4）

「姿勢動詞＋在＋場所名詞／場所名詞化された物名詞」に比べて、「姿勢動詞＋到＋場所名詞／場所名詞化された物名詞」の方が≪移動性≫が感じられる。つまり、前者の場合は、動作の主体がその空間か物に付着したことを表現しているだけであるが、後者の場合は、その空間または、その物の存在する空間まで移動してからそれに付着したことを表現しているのである。

〇终于，还是多年相处的司马觉出了问题，站到她坐的沙发前，问道……
（人到老年p. 118）

〇母亲坐到小折床边，拍着她。（你一直对温柔妥协p. 151）

〇她没有做什么姿态，她只是熄了灯躺到床上。
（相会在最后的岛屿p. 8）

５．姿勢動詞の中日比較（4）時間（1）

•姿勢動詞は時間帯を表す名詞や一部の時間副詞によって修飾される時には、姿勢の持続の時間を表している。その場合、日本語では、完成相を使っても継続相を使っても意味が変わらないだろう。ここでは完成相と継続相との対立がなくなっていることを物語っている。

〇A.　１時間立った。

　B.　1時間立っていた。

〇長い一日、ベッドに横たわる。（朝日新聞1999.6.13）

〇たっぷり30分、石段に腰をおろして待ってあげたのだから、もう声をかけても怒られはしないだろう。（未完の対局p.53）

５．姿勢動詞の中日比較（4）時間（2）

中国語では、姿勢動詞に限らずすべての動詞は、その後ろに動作の時間的な量を表現する語句が現れる時には、持続を表すアスペクト助詞「着」を伴わないことになっている。姿勢動詞の場合、その後ろに位置する時間的な語句が姿勢の持続の時間を表現している。

〇刘果在楼梯口站了一会儿，然后慢慢地走去。
（作家文摘1997. 10. 3）

〇在康伟业离职的那天，夫妇俩靠在床头坐了一夜。
（作家文摘1997. 10. 31）

〇母亲说，小折父亲在床上一躺就三年。（你一直对温柔妥协p. 132）

５．姿勢動詞の中日比較（5）働きかけ（1）

日本語の姿勢動詞が働きかけ文に使用される場合、完成相の形も継続相の形も採用されるのだが、一般的に言えば、完成相が使われるときには、相手（聞き手）にその姿勢の状態に入ることを求めているが、継続相が使われる時には、相手にその姿勢を継続するか、またはその姿勢の状態に入ってから更にその姿勢を継続することを求めているのである。

○「まあ落ち着いて……そのへんに掛けてください。」（Wの悲劇p. 151）

○「坐って下さい」魚津はそこに立っているかおるに言った。（氷壁p. 300）

○「おい坐れえ、もう止めえ。坐って、まあ一杯いけえ、おい坐れえ」（駅前旅館p. 81）

○食べ終わるまで、そこに座っていなさい。（毎日新聞）

○「よし。言いたくないのなら言うな。その代り、言うまでそこに座っていろ。……」（あうん）

５．姿勢動詞の中日比較（5）働きかけ（2）

中国語の姿勢動詞が働きかけ文に使用される場合には、語彙的な意味に≪変化性≫が含み込まれているものを除いて、普通、方向補語を伴う形で現れなければならない。方向補語と組合わさることによって≪変化性≫が賦与されて、姿勢の変更が表せるようになるのである。

〇老板娘打量着美君，看她长得标志文静，的确可爱。态度转变了，招呼她："坐下。"（头顶一条路p. 198）

〇见她躺着，又吼道："谁让你躺着？给我坐起来！"（头顶一条路p. 529）

〇"来，站起来，背上枪。"（相会在最后的岛屿p. 349）

〇"跪下！"干娘艾窝窝儿厉声喝道。（野婚p. 36）

〇叶风云闻言，点了点头，便忙扶住了靠近自己的一个小老头，说道："四位，请起。"这四人站了起来，都是眼中含泪，满脸带着感激之色。（无极神医）

５．姿勢動詞の中日比較（６）実現（1）

中国語では、動作の実現（目標への達成）あるいは非実現とその所要時間を表現するためには、同じ動詞が繰り返される（動詞のコピー）という形で特別な構文が使用されている。

Ｖ１了＋時間名詞＋才＋Ｖ１＋補足語　＜肯定・実現＞
Ｖ１了＋時間名詞＋也＋没Ｖ１＋補足語　＜否定・非実現＞
A．躺了半天才躺下去　　B．躺了半天也没（有）躺下去。
A．蹲了老半天才蹲下去　B．蹲了老半天也没（有）蹲下去。

もし“躺了半天”“蹲了老半天”というだけでは、“半天”“老半天”はな“躺”“蹲”という姿勢の持続の時間を表すことになるのだが、上に示したような特殊な構文において、姿勢動詞の語彙的な意味が特殊化してしまうため、時間名詞は、姿勢動詞のなわちいると目指していた姿勢の状態に入るために体の方が変化するのを止めて、その姿勢への移行のすべてのの姿勢のの状態つまり、肯定（実現）の場合は、それだけの時間がかかっても、目指していた姿勢の状態に入る時間を表現しているのである。やっと目指していた姿勢の状態に入れたことを表しているし、否定（非実現）の場合は、それだけの時間がかかって、やっと目指していた姿勢の状態に入れなかったことを表しているのである。

５．姿勢動詞の中日比較（６）実現（2）

- 比較

〇买了三年没有买到。
〇结了三次婚也没有结成。
〇写了半天一个字也没有写出来。

- 参照

彭広陸「“买了三年没有买到”をめぐって」『荒屋教授古希記念中国語論集』白帝社、2000年3月（pp.176-199）

６．姿勢表現と視点（１）「視点」とは何か

先行研究に見られる諸規定を踏まえて、とりあえず《視点》を次のように定義づけてみる。

《視点》とは、単語・連語・文・談話（テキスト）それぞれの言語的単位のレベルにおける言語主体（命名者・話者・書き手・語り手を含む）の事象へのとらえ方である。具体的に言うと、事象を、誰が見ているのか、どの部分を見ているのか、どこから見ているのか、どのように見ているのか、という言語主体の心理的操作であり、そして何らかの形で言語化されたものである。

参照

彭广陆《日语研究中的“视点”问题》《认知语言学入门》外语教学与研究出版社，2008年9月

彭广陆《“视点”纵横谈》《语言学研究》第16辑，高等教育出版社，2014年12月（pp. 35-44）

６．姿勢表現と視点（２）視点の分類

①《主観的視点》《客観的視点》
②《空間的視点》《時間的視点》《心理的視点》
③《無制限な（無設定の）視点》《内的視点》《外的視点》

６．姿勢表現と視点（3）「視点」による言語の分類(1)

《視点》の観点から、類型論的に言語を、《視点固定型》の言語と《視点移動型》の言語に二分することができよう。そして、日本語と英語が異なるタイプの言語と見なされている。

	日本語	英語
金谷武洋(2004)	視点移動型	視点固定型
諏訪春雄(2006)	視点移動型	視点固定型
甘露統子（2004）	視点固定型	視点移動型
森山　新(2006)	視点固定型	視点移動型

６．姿勢表現と視点（４）「視点」による言語の分類(2)

《視点》における日本語と中国語の類型上の相違については、次のように捉えたい。

日本語　　中国語　英語

視点固定型←――――――――――――――――→視点移動型

視点の固定が相対的なものであるのに対して、視点の移動は絶対的なものである。上記のような分類は、全体的な傾向としての捉え方によるものであり、≪視点移動型≫の言語は≪視点固定型≫の言語に比べて視点移動の頻度が高いということを意味するものである。

６．姿勢表現と視点（5）姿勢動詞における「視点」のあり方(1)

姿勢の変化・変更にはカテゴリカルな意味としての≪方向性≫を帯びているのだが、日本語の場合は、姿勢動詞の語彙的な意味にはそれが含意されていることになっている。つまり姿勢動詞だけで姿勢の変化・変更を表すことができるのである。それに対して、現代中国語の場合は、一部の例外を除いて、基本的に、語彙的、または文法的手段によって≪方向性≫を表わさなければならないのである。

起身　站起身　起立　起来　站起来　坐起来　坐起身　仰卧起坐

坐下　蹲下　下蹲　跪下　下跪　趴下　躺下

つまり“起”という動詞が使われていれば、「下から上への体の動き」をあらわすことになるのに対して、“下”が使われていると、「上から下への体の動き」を表すことになるということである。

６．姿勢表現と視点（6）姿勢動詞における「視点」のあり方(2)

“起”や“下”によって表現される姿勢の≪方向性≫は、姿勢の変化・変更という運動に条件づけられており、客観的なものであるとすれば、“来”や“去”によって表現される≪方向性≫は表現者（話し手・書き手）の視点に条件づけられるものであり直示的であるため、主観的なものである。言うまでもなく、方向補語としての“来”や“去”によって言い表されるところの≪主観性≫（主観性的方向性）は、移動動詞としての“来”や“去”の語彙的な意味に含意される≪主観性≫に由来するものである。

一方、「下から上への姿勢変更」を言い表すのに、“起来”と言えても“起去”とは言えない。それに対して、「上から下への姿勢変更」の場合は、“下来”によっても“下去”によっても表現が可能である。

坐下　→　坐下来 / 坐下去
蹲下　→　蹲下来 / 蹲下去
跪下　→　跪下来 / 跪下去
躺下　→　躺下来 / 躺下去

６．姿勢表現と視点（7）姿勢動詞における「視点」のあり方(3)

〇看着楚尘离开凉亭后，柳芊芊气呼呼地坐下去。“试卷还挺新的。”柳蔓蔓坐下来，拆开了试卷包装。（超级弃婿楚尘）

〇刚站起来，蔡根忽然叫住凌海，道：“凌检，你再坐一会，我有几句话单独跟你说一下。”凌检忙又重新坐了下来。（狂傲人生）

〇柳倾城对这女孩子十分客气，微笑道：“请坐。”女孩子说了一句谢谢，便坐了下去。（无极神医）

〇孔大巍怕挨揍，立马“扑通”一声跪了下来，他的那些小弟，也都跟着纷纷跪了下去，嘴里叫着：“拜见老大！”（无极神医）

〇楚尘蹲下来，为慕容宸虹诊脉。（超级弃婿楚尘）

〇说完，正想去训斥秦傲雪两声，结果秦傲雪已经跑到秋田犬的跟前，蹲下去伸手逗起狗来了。（上门龙婿）

６．姿勢表現と視点（8）姿勢動詞における「視点」のあり方(4)

方向補語たる“来”と“去”によって表現される方向は正反対するものではあるが、その使い分けは、表現者の≪視点≫の置き方に決定づけられることになる。本動詞としての“来”と“去”の用法とは違って、方向補語の“来”と“去”の場合は、姿勢変更の目標としての付着先であるモノ＝場所に視点が置かれていると、“V来”、姿勢変更の主体に視点が置かれている場合は、“V去”が使われることになっている。“V去”より“V来”の方が主観性が強いと言えそうである。上記のような使い分けは、移動動詞としての“进”と“出”の使い分けに通ずるところがあると考えられる。

下来　　下去

参照点　目標空間　　動作者

- 参照

彭广陆<关于日汉语言认知模式的一个考察 ——以“出入”与“内外”的关系为例>《东北亚外语研究》2020年第4期（总第31期）（pp. 14-28）

６．姿勢表現と視点（9）姿勢動詞における「視点」のあり方(5)

姿勢動詞と共起する、方向補語としての“来”/“去”の分布を調べるために、二つのコーパスを利用して検索してみたが（最終アクセス日2023年１月20日）、抽出した用例数は下記の通りとなっている。

	BCC语料库	CCL语料库
坐下来	12514	3116
坐下去	874	292
蹲下来	1669	280
蹲下去	548	171
跪下来	1383	350
跪下去	397	126
趴下来	125	32
趴下去	99	29
躺下来	1237	291
躺下去	561	133

７．姿勢表現への見直し：類型論の観点から（１）

レナード・タルミ（Leonard Talmy）（1991,2000）は、類型論の観点から移動表現に基づいて世界の言語を「動詞枠づけ言語」（verb-framed language）と「衛星枠づけ言語」（satellite-framed language ）に二分している。分類の決め手は、移動の「経路」（Path）がどのように語彙化されているかということである。

「動詞枠づけ言語」（V言語）

スペイン語・フランス語・イタリア語・アラビア語・ギリシア語・日本語

〇La botella Sali (de la Cueva) flotando.

典型的な「衛星枠づけ言語」（S言語）

英語・ドイツ語・オランダ語・中国語

〇The bottle floated out (of the cave)

この分類では、中国語と日本語は異なるタイプの言語とされている。

７．姿勢表現への見直し：類型論の観点から（2）

Talmyの分類では、中国語は「衛星枠づけ言語」の言語とされているのだが、それについては、いろいろな意見が見られる。例えば、李福印（2019）は、現代中国語（普通話）は「動詞枠づけ言語」と「衛星枠づけ言語」の混合型だという意見を支持している。ここで注目したいのは、Christine LAMARRE（2017）の主張である。その主張の要点は以下のようにまとめることができる。

・中国語の移動表現は、移動事象表現のタイプによって経路の表現手段が異なる。

・中国語は経路動詞を多く使う言語であり、典型的なサテライト枠づけ言語ではない。

・経路補語を後項とする複合動詞こそ、客体移動表現を含む移動表現のすべてのタイプに使える点、そして経路補語は音声面で弱化しており、閉じた類をなす点において、サテライト枠づけ言語の特徴も備えている。

７．姿勢表現への見直し：類型論の観点から（3）

- 更に、Christine LAMARRE（2017）では、≪経路動詞≫を次のように分類している。

　ここでは、移動経路動詞を、基本的経路スキーマを表すもの（グループ①とする）とその他（グループ②とする）、という二つのグループに分ける。

　……（中略）

　以上紹介した単音節動詞のグループに、自動詞で姿勢を表す動詞群を加えるべきである。たとえば、“坐zuò”（座る，乗る），“躺tǎng”（横たわる），“跪”（ひざまずく），“蹲dūn”（しゃがむ），“摔shuāi，跌diē”（ころぶ）（以上“下”と共起），“站zhàn”（立つ）（“起来”と共起）を含む。“坐”は“下”以外の経路補語と共起できる，たとえば“坐起来”（寝ている状態から座る状態への移動），“坐进来”（乗り込む）など。

- 大事な言及である。姿勢表現は主体移動表現に類似する点が多いので、視野に入れるべきである。ただし、姿勢動詞の場合は、単音節で姿勢の変更を表現できるのは限られた構文においてのみであろう。

7．姿勢表現への見直し：類型論の観点から（4）

○ “啊，别起了，老书记，你就坐着吧！”（全王之术）
○ “咳，行。你先起来。” “不起，这长夜漫漫的，咱们先把正事做了再说吧。”（无极神医）
○叶风云闻言，点了点头，便忙扶住了靠近自己的一个小老头，说道：“四位，请起。”这四人站了起来，都是眼中含泪，满脸带着感激之色。（无极神医）

○叶风云上台，和三长老对立而站。（无极神医）
○叶风背负双手，傲然而立。（无极神医）

○ “新民同志来了，坐。”郑国鸿笑眯眯起身。关新民点了点头，在另一旁的沙发坐下。（逆袭人生）
○李老示意了一下座位，微笑道。叶风云不是傻子，李老没坐，他怎么敢坐啊？他见李老坐了下来，却才半边屁股坐在了椅子上，显得一片局促不安。（无极神医）

○山童姥微微笑道：“按拜师之礼，跪下吧。” “好，我跪！” （无极神医）
○ “你跪啊，那我也跪。”（超级弃婿楚尘）

○ “你蹲地上干什么？”沈小峰的奇怪举动终于让杨淑芬忍不住开口。（沈小峰李甜）

７．姿勢表現への見直し：類型論の観点から（4）

- このように、現代中国語における姿勢動詞のうちの単音節のものに限って言えば、≪経路動詞≫として使えるのは、働きかけ文（禁止の場合も含む）、意志表明の文、文語の化石的な使用（“…而立/站”のようなもの）など、限られた構文・文体においてではないだろうか。むろん、“起立”のような複合動詞、“起身”のような動詞と名詞との組み合わせも≪経路動詞≫として使用されることもある。

〇陈泽楷将报告厅的大门推开，叶辰迈步进入，万破军便立刻条件反射的站起身来。紧接着，剩下近百名将士也都纷纷起立，敬畏的看着大步走入的叶辰。（上门龙婿）

〇叶风云一听秦小姐来了，连忙起身。（无极神医）

しかし、上に挙げた実例からも分かるように、平叙文の場合は、姿勢動詞が方向補語を従えている用例が圧倒的に多いのである。いずれにしても、姿勢動詞を見るだけでも中国語は「動詞枠づけ言語」と「衛星枠づけ言語」の混合型の言語だと言わなければなるまい。

８．おわりに

- 以上、実例に基づいて中日両語における≪姿勢動詞≫の意味用法を記述してきたが、以下のようなことが明らかになった。
- 日本語の姿勢動詞は、その語彙的な意味に≪変化性≫が含みこまれているのみならず、≪方向性≫（経路）も含意されている（語彙化されている）ため、完成相では姿勢の変更を、継続相では姿勢の継続を表すことができる。類型論的には、≪動詞枠づけ言語≫の特徴を持っているということになる。更に、単純動詞と複合動詞が構文的機能によって使い分けられている傾向も見せている。
- 一方、現代中国語の姿勢動詞は、方向補語の助けによって姿勢の変更を表す場合が圧倒的に多い。その語彙的な意味が≪状態性≫を帯びているからである。その意味では、いわゆる≪方向補語≫が≪方向性≫（経路）を表すマーカーとなっているのである。類型論的観点から言えば、中国語は、≪衛星枠づけ言語≫の特徴を顕著に持っている同時に、≪動詞枠づけ言語≫の一面も観察される。

参考文献（1）

荒川清秀1985「“着”と動詞の類」『中国語』７月号、大修館書店。
池上嘉彦2006「＜主観的把握＞とは何か—日本語話者における＜好まれる言い回し＞」『月刊言語』5月号
大江三郎1975『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
奥田靖雄1993「動詞の終止形（その１）」『教育国語』第2・9号
奥田靖雄1994「動詞の終止形（その２）」『教育国語』第2・12号
奥田靖雄1997「動詞（その１）——その一般的な特徴づけ」『教育国語』第2・25号
加藤周一2007『日本文化における時間と空間』岩波書店
金谷武洋2004『英語にも主語はなかった』講談社
甘露統子2004「人称制限と視点」名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻編『言葉と文化』第５号
甘露統子2005「『語り』の構造」名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻編『言葉と文化』第6号
工藤真由美1995『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現』ひつじ書房
久野暲1978『談話の文法』大修館書店
諏訪春雄2006「日本語の特色—移動する視点—」『日本語の現在』勉誠出版
澤田治美1993『視点と主観性—日英語助動詞の分析』ひつじ書房
益岡隆志1992「表現の主観性と視点」『日本語学』８月号
松本曜2017『移動表現の類型論』くろしお出版
松本曜2017「第１章　移動表現の類型に関する課題」『移動表現の類型論』くろしお出版
松本曜2017「第13章　移動表現の性質とその類型性」『移動表現の類型論』くろしお出版
森田良行2006『話者の視点がつくる日本語』ひつじ書房
森山新2006「視点についての認知言語学的視察」『科学研究費補助金研究　基盤研究（C）課題番号17520253　認知言語学的観点を生かした日本語教授法・教材開発研究～１年次報告書』
Christine LAMARRE2017「第５章」　『移動表現の類型論』くろしお出版

参考文献（2）

郭锐1993《汉语动词的过程结构》，《中国语文》第6期

郭锐1997《过程和非过程---汉语谓词性成分的两种外在时间类型》，《中国语文》第3期

金昌吉1998《动词后的介词短语及介词虚化》《句法结构中的语义研究》，北京语言文化大学出版社

李福印2019《事件语义类型学》北京大学出版社

李临定1988《汉语比较变换语法》，中国社会科学出版社

李临定1990《现代汉语动词》，中国社会科学出版社

刘月华、潘文娱、故韡2019《实用现代汉语语法》（第三版）商务印书馆

陆俭明1993《八十年代中国语法研究》，商务印书馆

马庆株1981《时量宾语和动词的类》，《中国语文》第2期

石毓智2003《现代汉语语法系统的建立——动补结构的产生及其影响》北京语言大学出版社

邢公畹1993《现代汉语具有“位置移动”语义特征的动词》，《汉语研究》第3期，南开大学出版社

袁毓林1993《现代汉语祈使句研究》，北京大学出版社

朱德熙1982《语法讲义》，商务印书馆

Talmy, L. 1991.Path to realization.*Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society* ,17,480-519. Berkeley Linguistics Society.

Talmy, L. 1985. Lexicalization patterns: Semantic structure in lexical forms. Language typology and syntactic description, 3(99): 36-149.

Talmy,L .2000.Toward a Cognitive Semantics *vol.2:Typology and process in concept structuring*.Cambridge,MA:MIT Press.